

植物から得られる「いのち」のエネルギー

俳優・歌手 稲垣 吾郎
いながき ごとろう

2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)は、人と自然が共生する望ましい未来社会の姿を日本から発信するとともに、日々の人々の暮らしと花や緑との関わりを再認識する場となります。身近な植物の育て方を伝授する『趣味の園芸』(毎週日曜8時30分NHK Eテレ)にレギュラーゲストとして出演し、ご自身も植物を育てることを日常の中で楽しんでいるという稲垣吾郎さんに、園芸の魅力や、植物との関わりを通じた暮らしの変化、GREEN×EXPO 2027への期待について伺いました。

じっくりと植物に向き合い楽しむ

仕事柄、昔から花束をいただく機会が多く、部屋に花のある日常が当たり前でした。花を手にした時の幸福感というのは、誰にでもありますよね。とはいえ若い頃は、花がないと物足りない気持ちにはなるもの、植物と意識的に向き合うということをしてはきませんでした。

晴れた青空を見上げると、心が軽くなって元気をもらえることがありますよね。同じように、年を経る中で、植物を眺めて癒やされたい、元気になりたいという気持ちになることが多くなり、より一層そうした時間を求

めるようになってきました。

はじめは部屋の中に土を持ち込むことに少し抵抗があったので、切り花のほか、例えば胡蝶蘭など、水苔で育てる植物を飾って楽しんでいましたが、花の周りにグリーンがあるととても映えますよね。自然環境でも、森があつて、草木があつて、花はそ

の中に咲いています。花をより活かすために、その周りにグリーンも飾ってみようと、2年ほど前から自宅で観葉植物を育てるようになりました。

こうして、植物を育てることが趣味となり、これに没頭するうちに、『趣味の園芸』へのレギュラー出演が決まりました。この



番組では、鉢植えや観葉植物、庭木など、毎回様々な植物がテーマとして取り上げられます。地植えや鉢植えで育てる植物は、切り花と違って長く付き合っていくもので

すし、育てていく中でビジョンを持たなければなりません。四季の移り変わりを感じながら時間をかけてじっくりと植物に向き合い、慈しみながらゆっくり楽しめるとい

うのが、園芸の魅力であると感じています。自治体による緑化計画などで目に触れる緑が増えつつあるとはいえ、東京で暮らしていると、自然の緑に触れる機会は多くはありません。それもあって、植物を通して「いのち」のエネルギーを近くに感じていたい、という思いは年々強くなっているように思います。これからも園芸は、自分が生きていくうえで必要な趣味の一つであり続けるでしょう。

植物や自然に根差した日本の文化が世界へ発信される場に

GREEN×EXPO 2027は、今から非常に楽しみにしています。世界中の方々に、日本ならではの植物や庭づくりなどの文化に

触れていただく機会にもなりますよね。園芸の楽しさが、より多くの人々に広がっていくとよいと願っています。

GREEN×EXPO 2027のクリエイターとしてキービジュアルを担当される蜷川実花さんには、僕もこれまで何度も撮影してもらったことがあります。また、蜷川さんが撮る花をテーマとした生命力あふれる写真が大好きです。僕自身、植物を育てるのと同じくらい、写真を撮ることも好きなので、博覧会が開催されたら、ぜひ会場へ植物の写真を撮りに行きたいと思っています。カメラに凝らなくとも今はスマホで簡単に写真が撮れる時代ですので、皆さんにも、ぜひ会場を散策して草木や花を撮ることをお勧めしたいですね。

長く続いたコロナ禍をきっかけに、植物を育てることを趣味とする新たな層が広がったと聞きました。植物に触れるのは、例えば一輪の花を飾るなど、小さなことから手軽に始められますし、それぞれの環境や生活スタイルに合った、多様な楽しみ方が可能です。僕自身、まだまだ勉強中ですが、園芸を通して人との出会いも広がってきました。これからも様々な形で、園芸を

楽しんでいけたらいいなと思っています。

現代の人々は、どうしてもせわしない気持ちで日々を過ごしてしまいがちですが、植物に触れることで、気持ちをゆったりさせることができます。園芸も、すぐには答えが出ないものだからこそ、長く付き合いたいと向き合っているとこころがいいなど感じています。園芸という趣味を通じて、これからの人生をゆったりと、心豊かに生きていけそうな予感がしています。

稲垣吾郎 (いながき・ごろう)

1973年生、東京都出身。俳優・歌手。テレビやラジオ、映画、舞台などで幅広く活躍。以前から切り花のある暮らしを楽しんでいたが、2022年春、観葉植物の購入をきっかけに一気に園芸に目覚め、多くの草花に囲まれる生活を送るようになった。